

平成25年度 学内教育GPプログラム事業経費計画書（継続型）

事業名称	「格差センシティブな人間発達科学の創成」に関する教育事業
取組代表者名 担当者名	<p>* 事業担当者は全員記入してください。</p> <p>浜野隆、菅原ますみ、大森美香、坂元章、榊原洋一、平岡公一、三輪建二、米田俊彦、坂本佳鶴恵、大森正博、篁倫子</p>
事業内容	<p>* 事業内容については、大学全体の波及効果や支援期間後の見通しも含め、具体的に記入してください。なお、計画書は適宜広げて（本用紙を含め2枚以内）記入してください。</p> <p>これまでグローバルCOE「格差センシティブな人間発達科学の創成」は、国際教育研究拠点として、この分野の研究を進めることにより、また、国際シンポジウム、国内シンポジウム、セミナーなどの開催、さらに、RA任用、公募研究助成、協働研究補助、研究発表支援、英文モノグラフ刊行などによって、学生・院生・若手研究者の教育に資する取り組みを推進してきた。</p> <p>人間発達教育研究センターは、センター内にグローバルCOEの後継事業部門を立ち上げることにより、21世紀COEおよび今回のグローバルCOEが築いてきた教育と研究の拠点事業の一部を継続し、人間発達科学専攻の恒久的活動へと引継ぐことを目指している。上記事業の大半は多額の予算が必要であり、グローバルCOEの学内外関係者の連携関係や実績を背景として、それぞれの取り組みについて新たに予算請求をし、実現を図っていくこととなる。しかし、国内シンポジウムの開催、グローバルCOE期間中に構築した研究データベースの管理、人間発達研究を展開している国内外の研究拠点との交流については多額の予算を必要としないことから、来年度以降も実現が可能である。今後の4年間で以下の活動を計画している：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業実施・・・グローバルCOE期間中の教育と研究の成果を学生に還元するための授業をおこなう。“社会的格差と人間発達”をテーマとし、前期科目として“子どもの発達にみる格差：地域・学校・家庭”（全15回）、後期科目として“ジェンダーをめぐる格差の形成と構造”（全15回）を学部学生を対象として実施し、人間の発達過程における社会的格差の問題に対してセンシティブな視点を有する学生の育成をめざす。 2. 国内シンポジウム開催・・・グローバルCOE中の研究成果（社会的格差と人間発達との関連性に関する国内外の調査研究）の発信。 3. 子ども期の発達と社会的格差との関連に関する縦断データベースの管理・・・グローバルCOE期間中に収集したデータを整備・統合して解析を進め、成果を発信する。 4. 人間発達研究を展開している国内外の研究拠点との交流・・・研究成果報告書の交換などの情報交流を進める。 <p>以上4点の取り組みを進めるにあたり、①授業を担当する非常勤講師の雇用および②国内シンポジウム開催の事務作業、③縦断的研究データベースのクリーニングおよびファイル統合作業、④他拠点との交流にあたっての連絡事務のためのアカデミック・アシスタントの配置が必要である。アカデミックアシスタントの職務は上記①～④までの事務作業であり、配置は人間発達</p>

	<p>研究センターGCOE 後継部門となる。</p> <p>「人間発達科学」は、21世紀COE、グローバルCOEの両方においてプログラムが採択された本学唯一の分野であり、本学において注目度の高い領域である。国際教育研究拠点としての評価が維持され、そこで、優れた教育的な取り組みが行われることは、本学の威信を高めるのに効果的であると思われる。</p> <p>今回の支援は、50万円以内の非常勤講師とAAの雇用費であり、支援期間が終了した後は、担当者間の協力によって体制を維持していきたいと考えている。</p>
<p>事業期間終了後の計画</p>	<p>* 事業期間終了後、この教育プログラムをどのような形で活かしていくのか計画を記入してください。なお、計画書は適宜広げて（本用紙を含め2枚以内）記入してください。</p> <p>事業期間終了後も、「人間発達科学」については、本学が国際的教育研究拠点であるという評価が維持されるべきである。そのため、事業期間中には、学生への成果還元と学内外、国内外の関係者間の連携関係を維持・発展させるとともに、新たな資金の獲得などによって教育的成果を挙げ、それらの蓄積を活かして、事業終了後も変わらずに「人間発達科学」に関する教育的取り組みを続けていく。</p>